

④安満岳山頂(西禅寺跡・白山神社・薩摩塔・西禅寺墓地)

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(構成遺産)

平戸島の中央部に位置する平戸市最高峰の安満岳は、神道、仏教、キリシタンの信仰の対象となっている霊地であり、頂上の岩場(国見岳)から眼下に生月島を望むことができます。

#### ※西禅寺墓地

安満岳の石の参道からしばらく下ったところの横に西禅寺関係の墓地があります。大型の近世の墓石もあります。その近くに中世の石塔があります。それらの多くは「日引(ひびき)石」といわれる。若狭湾の高浜町に日引地区があり、そこで製作され平戸にもたらされた石塔です。もたらされた年代は研究から、十四〜十五世紀と考えられています。

(久家 孝史)

#### ●波佐見史談会

天気予報の時間となりました。「波佐見町を除く長崎県地方に暴風雨波浪注意報が出ています。」海に囲まれている長崎県、その中で海のない波佐見町。風なく地震なくよかところでは。

本町の人口は、昭和三十一年の合併以来、約一万五千人、多少の増減はあるもののほぼ横這い状態を維持、多くの市町村が、人口減少が見られる中、数少ない人口維持の町です。南は農村地帯、東は窯業を生業としています。

平成二十八年度は、波佐見町制施行六十周年又町の文化祭も五十回目を迎える記念の年でした。

そのわが町の波佐見史談会は、会員二十七名、平均年齢七十六歳で立派な後期高齢者です。粉骨碎身力の限り頑張ろうにもそれはその：限界があるのです。耳遠く、足動きがたく候。若返りの妙薬が欲しいものです。

二十八年度の事業報告を致しまして。年六回の役員会、六回の全体会平均月一回のペースで不定期ながら話し合いがもたれました。古文書教室は、月二回、六名でのんびりと勉強をしています。なお、行事は、秋から冬にかけて集中しています。

◆第五十回文化祭(平成二十八年十月二十九〜三十日)

○古文書「諸事控えの解説」・大村記

○史跡巡り「説明と写真パネル」鹿島三岳神社・松岡神社など

○端午の節句「女禮集」解説・粽文化・菖蒲・明治 大正の幟

○福田清人氏 寄贈の本など

○学校制度

◆武雄方面史跡巡り【町外研修】(平成二十八年十一月二十七日)

○志田焼の里(登り釜の中でのガイドさんの説明)

○潮見神社

○曹洞宗円心寺

○河童の誓文名

○おつぼ山神籠石など

◆会員発表会(平成二十八年十二月六日)

○発表者 橋口佐登司氏「黒板勝美・伝作兄弟と神近市子との血縁関係」

◆永尾・三股史跡巡り(平成二十九年一月十四日)

○白山神社

○三股砥石川砥石採石場

○三股青磁の里ギャラリー役所など

◆史談会定期講演会(平成二十九年三月五日)

○講師 久村貞男氏「波佐見と三川内のやきもの変遷」(大村領波佐見と平戸領三川内との境界線紛争について)

「永尾・三股史跡巡り」を副会長の

おもいつきで初めて町内有線放送を試みてみました。

町民の皆様呼びかけると寒く小雨混じりの日にかかわらず、会員十一名

に対し一般の参加者がなんと十二名と、思いがけなく嬉しかったです。この時、史談会会員の知り合いのカメラ

マンも同行、長崎新聞「待ちどさらく」の連載欄に「焼き物の町の歴史を感じながら史跡巡りを楽しもう」と載せて

いただき、波佐見史談会のことを知ってもらおうよい機会となりました。

又、若者の参加が多く、その所為か、立派な後期高齢者の会員の足取りが急に軽くなり山の頂上まで登っていった

には、驚きました。これこそ、若返りの妙薬だったのです。

## 事務局より

平成二十六年度の総会の意向に基づき、平成二十八年度の研究発表会も、春・秋の二回開催しました。また、本年度の春の研究発表会では、キリスト教関連遺産と関連して、キリスト教と長崎の歴史に関するテーマを取り上げています。専門的立場からの研究の深化を期待したいと思います。

秋の研究発表会は十一月二十六日(日)、平戸で開催されます。地方史研究会のホームページを開設して四年にたっています。まだ、決して多いとはいえませんが、各史談会や個人会員から積極的な情報提供をいただき、内容も深めることを願っています。

(日宇)

長崎県地方史だより 第七十六号

平成二十九年三月三十一日

編集・発行

長崎県地方史研究会

(長崎市今博多町九番地二)

宮川ビル内

印刷 株式会社 藤木博英社

(長崎市万屋町五番十三号)